

長野県競技力向上基本計画



平成 31 年 3 月策定

長野県競技力向上対策本部

目 次

はじめに ～ 長野県競技力向上基本計画策定の趣旨 ～

第1章 基本的な考え方

- 1 基本計画の位置付け
- 2 基本計画の対象期間と目標
- 3 基本計画の見直し

第2章 長野県の競技スポーツの現状

- 1 長野県の競技力の現状
 - (1) 国民体育大会の成績
 - (2) 全国中学校・全国高等学校体育大会における入賞者数の推移
 - (3) 本県出身のオリンピック出場選手数及びメダリスト
- 2 ジュニア世代の現状
 - (1) 長野県の運動部活動加入状況の推移
 - (2) 本県の児童生徒の体力・運動能力の現状について
- 3 公益財団法人日本スポーツ協会公認資格の取得状況

第3章 競技力向上に向けた具体的な取組み

- 1 競技力向上のために取り組む4つの柱
- 2 競技力向上対策本部が主体的となって行う具体的な取組み
 - (1) 組織体制の整備・確立
 - (2) 指導体制の確立
 - (3) 選手の発掘・育成・強化・確保
 - (4) 競技力向上のための環境整備
- 3 各期間における主な取組み

(参考)

「長野県競技力向上対策本部」について

はじめに ～ 長野県競技力向上基本計画の策定の趣旨 ～

スポーツには、私たちに夢や感動を与え、明日への活力をもたらす大きな力がある。

とりわけ国際舞台や国内トップレベルの競技大会での長野県関係選手の活躍は、多くの県民に大きな喜びや誇りを与えると同時に、郷土を愛する意識や一体感を飛躍的に高めてくれる。

本県では2027年に開催する予定の第82回国民体育大会に向けた競技力の向上と大会終了後も持続・定着できる競技スポーツの振興を目指し、総合的な対策を計画的かつ着実に推進するため、2018年6月、県、市町村、関係団体等の幅広い主体の参画を得て「長野県競技力向上対策本部（以下「対策本部」という。）」を設立した。

今後、有望なジュニア選手の発掘・育成・確保、高い指導力を持つ指導者の養成・確保、選手へのサポート体制の充実など、競技力向上のための具体的な取組みを進め、対策本部が掲げる目的を達成するため、ここに「長野県競技力向上基本計画」を策定する。

第 1 章

基本的な考え方

第1章 基本的な考え方

1 基本計画の位置付け

この計画は、2027年に開催される予定の第82回国民体育大会における目標の達成と大会終了後も持続可能な本県の競技スポーツの振興を目指し、今後の具体的な取組みを示した指針とする。

2 基本計画の対象期間と目標

2027年の第82回国民体育大会では、「天皇杯及び皇后杯の獲得」を目標とする。

この計画は、次の4つの期間に区分し、期間ごとに目標を定め、評価・検証を行いながら、計画的に競技力向上事業に取り組む。

期 間		目 標	
		男女総合 (天皇杯順位)	女子総合 (皇后杯順位)
育成期	2019年～2021年	12位以内	10位以内
充実期	2022年～2024年	10位以内	9位以内
躍進期	2025年	8位以内	8位以内
	2026年	5位以内	5位以内
	2027年	天皇杯獲得	皇后杯獲得
定着期	2028年以降	10位以内	10位以内

3 基本計画の見直し

この計画は、競技力向上対策の進捗状況や目標の達成度、国民体育大会の改革等の外部環境の変化等を踏まえ、適宜見直しを行う。

第2章

長野県の競技スポーツの現状

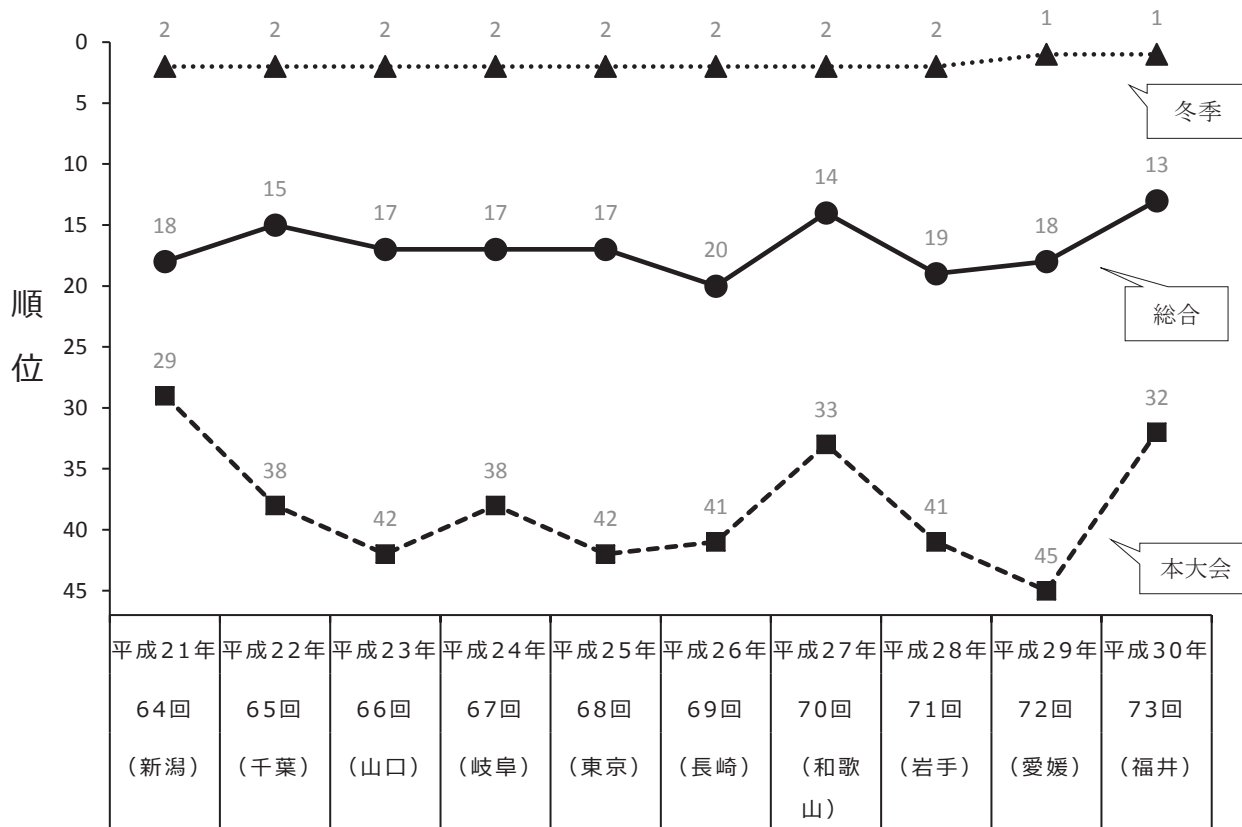
1 長野県の競技力の現状

(1) 国民体育大会の成績

①本県の男女総合及び季別種別の順位推移

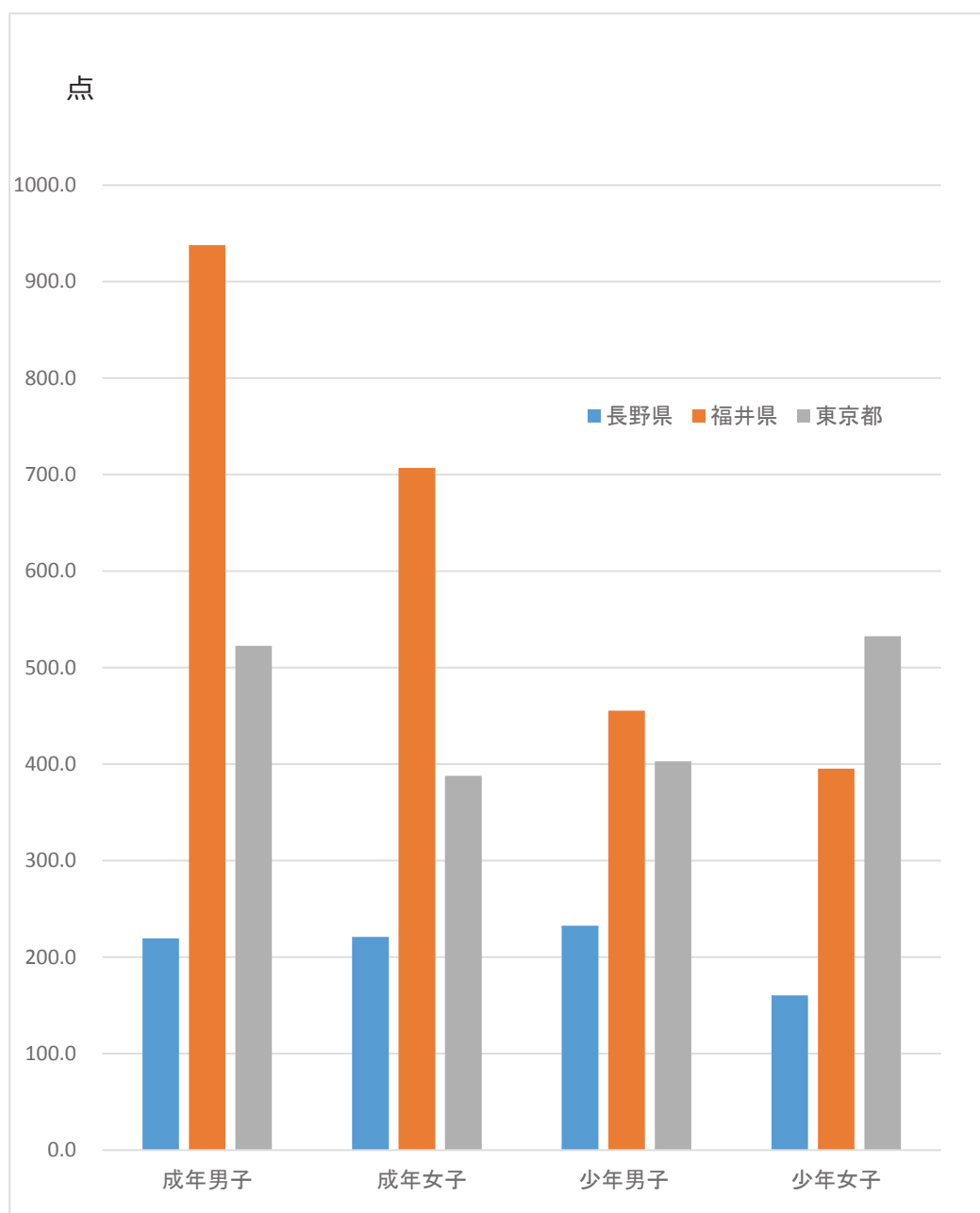
開催地	新潟	千葉	山口	岐阜	東京	長崎	和歌山	岩手	愛媛	福井
回	64回	65回	66回	67回	68回	69回	70回	71回	72回	73回
開催年	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年
男女総合順位	18	15	17	17	17	20	14	19	18	13
冬季大会順位	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1
成年男子	2	2	2	3	2	2	2	2	1	2
成年女子	2	1	2	3	2	2	1	1	1	1
少年男子	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
少年女子	2	2	2	1	2	2	2	1	1	1
本大会順位	29	38	42	38	42	41	33	41	45	32
成年男子	25	37	34	32	25	23	33	34	42	41
成年女子	24	29	43	39	43	37	21	34	38	21
少年男子	31	32	42	41	46	45	37	41	46	34
少年女子	39	42	40	32	35	46	34	31	34	22

国民体育大会（第64～73回）における長野県（総合・本大会・冬季大会）の順位推移



②第73回国体における長野県と上位県との種別競技得点比較

	成年男子	成年女子	少年男子	少年女子	合計得点
長野県	219.5	221.0	232.5	160.5	833.5
福井県	938.0	707.0	455.5	395.5	2496.0
東京都	522.5	388.0	403.0	532.5	1846.0



③第73回国体における長野県と上位県との競技得点比較【参加点を除く】

	1県あたり 獲得可能 最高得点	競技種目	長野県	福井県	東京都	大阪府
			13位	1位	2位	3位
1	608	水泳	50.5	33.5	367.5	191.5
2	519	スケート	214.0	76.0	98.0	100.0
3	448	陸上競技	33.5	55.00	106.00	156.00
4	324	スキー	173.5	24.0	3.0	
5	304	カヌー		93.0	46.0	
6	288	ボート	28.0	264.0	134.0	10.0
7	268	ボウリング		30.0	15.0	61.5
8	256	ホッケー		196.0		
9	256	ソフトボール	20.0	124.0		44.0
10	216	体操	30.0	150.0	50.0	75.0
11	208	バレーボール	47.5	33.0	83.5	74.5
12	192	サッカー	20.0	64.0	56.0	20.0
13	192	弓道	58.5	24.0	13.5	42.0
14	192	山岳		75.0	60.0	48.0
15	190	自転車	13.0	102.0	30.0	8.0
16	184	馬術	23.0	82.0	45.0	7.0
17	168	ライフル射撃	9.0	61.0	34.0	28.0
18	160	バスケットボール	27.5		12.5	27.5
19	160	ハンドボール		47.5	60.0	
20	160	ソフトテニス		25.0	80.0	25.0
21	144	セーリング		59.0	17.0	11.0
22	144	ウエイトリフティング	3.0	87.0	64.0	14.0
23	144	フェンシング	3.0	57.0	75.0	21.0
24	144	剣道		124.0	40.0	12.5
25	144	ラグビーフットボール		55.0	20.0	65.0
26	136	ボクシング	2.5	36.5	35.0	50.0
27	120	柔道		12.5	70.0	35.0
28	120	空手道	5.0	111.0	6.0	45.5
29	112	レスリング	37.0	43.0	56.0	10.0
30	96	テニス		24.0	21.0	21.0
31	96	卓球		40.5	45.0	16.5
32	96	バドミントン		36.0	7.5	28.5
33	96	アーチェリー	15.0	30.0		48.0
34	96	なぎなた		75.0	18.0	78.0
35	80	アイスホッケー	20.0	15.0	30.0	
36	72	ゴルフ		45.0	13.5	42.0
37	64	軟式野球		40.0		64.0
38	64	相撲		7.5		
39	48	トライアスロン		21.0	10.0	
40	48	クレール射撃		18.0	24.0	
	7357	合計得点	833.5	2,496.0	1,846.0	1,480.0

国体の競技得点

順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
個人	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点
2～4人	24点	21点	18点	15点	12点	9点	6点	3点
5～7人	40点	35点	30点	25点	20点	15点	10点	5点
8人以上	64点	56点	48点	40点	32点	24点	16点	8点

*参加得点は、本大会およびブロック大会に参加することで1競技につき10点があたえられる。

④本県の国民体育大会における競技別得点の推移（70～74回）

季別	男女総合（天皇杯）					
	競 技 名	第 74 回	第 73 回	第 72 回	第 71 回	第 70 回
冬季大会	スケート	185.0	214.0	265.0	195.0	185.0
	アイスホッケー	5.0	20.0	15.0	30.0	5.0
	スキー	148.5	173.5	120.0	84.0	139.5
	参 加 得 点	30.0	30.0	30.0	30.0	30.0
	競 技 得 点	338.5	407.5	400.0	309.0	329.5
	小 計	368.5	437.5	430.0	339.0	359.5
	冬季大会終了時順位	2	1	1	2	2
本大会	陸上競技		33.5	55.0	66.5	52.0
	水泳		50.5	34.0	35.0	37.0
	サッカー		20.0			40.0
	テニス				18.0	
	ボート		28.0	38.0	30.0	11.0
	ホッケー					
	ボクシング		2.5			
	バレーボール		47.5		30.0	42.5
	体操		30.0	20.0	20.0	30.0
	バスケットボール		27.5			12.5
	レスリング		37.0	5.0	23.5	15.5
	セーリング					
	ウェイトリフティング		3.0	8.0		21.0
	ハンドボール					
	自転車		13.0		7.0	
	ソフトテニス					
	卓球			21.0	7.5	7.5
	軟式野球					
	相撲					
	馬術		23.0	33.0	35.5	58.5
	フェンシング		3.0	3.0		15.0
	柔道					
	ソフトボール		20.0			
	バドミントン					
	弓道		58.5	12.0	24.0	48.0
	ライフル射撃		9.0	15.0	15.0	15.0
	剣道					
	ラグビーフットボール					
	山岳					
	カヌー				7.0	13.0
	アーチェリー		15.0			
	空手道		5.0	13.5	7.5	2.5
	銃剣道					
クレー射撃				6.0		
なぎなた						
ボウリング						
ゴルフ						
トライアスロン						
	参 加 得 点		370.0	370.0	370.0	370.0
	競 技 得 点		426.0	257.5	332.5	421.0
	小 計		796.0	627.5	702.5	791.0
	順 位		32	45	41	33
総合	参 加 得 点		400.0	400.0	400.0	400.0
	競 技 得 点		833.5	657.5	641.5	750.5
	合 計 得 点		1233.5	1057.5	1041.5	1,150.5
	順 位		13	18	19	14

⑤本県の第39回北信越国体（H30新潟県開催）における 競技別獲得数状況

No.	競 技 名	北信越 からの 出場数	各 県 の 獲 得 数					
			長野	新潟	富山	石川	福井	
1	水泳	水球	2	0	0	1	1	0
		AS	2	1	0	1	0	0
2	サッカー	4	2	1	0	1	0	
3	テニス	6	1	1	2	2	0	
4	ボート	20	6	4	3	7	0	
5	ホッケー	4	0	0	4	0	0	
6	ボクシング	5	1	3	1	0	0	
7	バレーボール	9	2	3	0	4	0	
8	体操	11	3	4	3	1	0	
9	バスケットボール	3	1	1	0	1	0	
10	ウェイトリフティング	6	2	0	2	2	0	
11	ハンドボール	6	0	0	4	2	0	
12	ソフトテニス	6	0	2	2	2	0	
13	卓球	7	3	1	0	3	0	
14	軟式野球	3	1	0	1	1	0	
15	馬術	22	8	3	5	6	0	
16	フェンシング	4	2	0	2	0	0	
17	柔道	2	0	0	0	2	0	
18	ソフトボール	5	2	1	1	1	0	
19	バドミントン	7	0	2	2	3	0	
20	弓道	5	3	0	1	1	0	
21	ライフル射撃	22	2	4	7	9	0	
22	剣道	3	0	0	0	3	0	
23	ラグビーフットボール	3	0	2	0	1	0	
24	山岳	5	2	1	1	1	0	
25	カヌー	23	0	8	9	6	0	
26	アーチェリー	5	1	1	3	0	0	
27	空手道	9	4	1	0	4	0	
28	銃剣道	0	0	0	0	0	0	
29	クレー射撃	3	1	1	1	0	0	
30	なぎなた	3	0	1	1	1	0	
31	ボウリング	9	0	4	1	4	0	
32	ゴルフ	3	1	1	0	1	0	

合計	227	49	50	58	70	0
県別獲得数割合 (%)		21.6	22.0	25.6	30.8	0.0

(2) 全国中学校・全国高等学校体育大会における入賞者数の推移

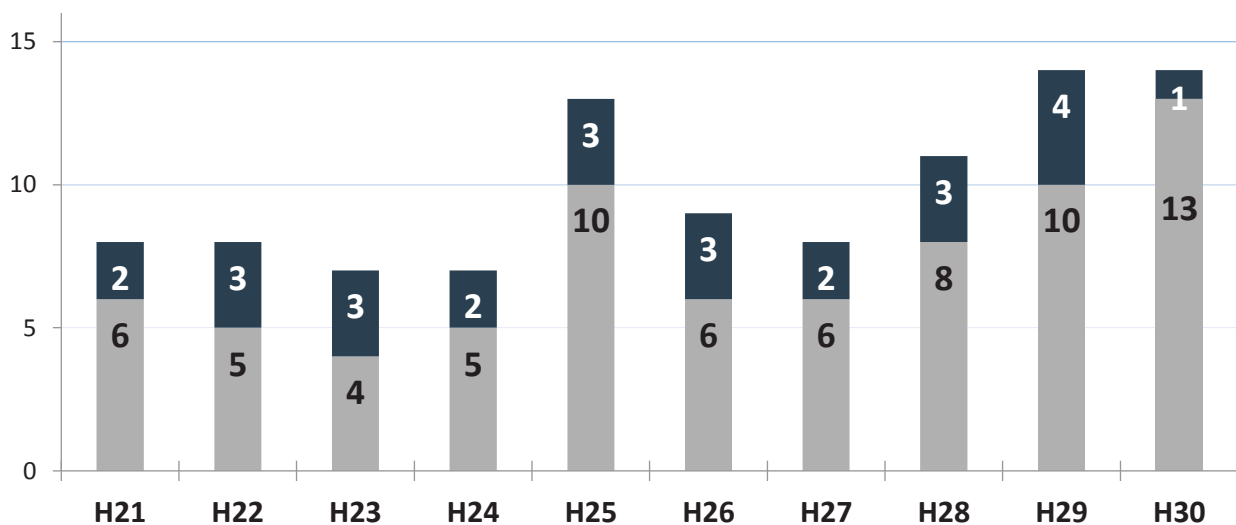
①夏季大会

<全国中学校体育大会における入賞者数（8位以内）の状況（直近10年間）>

年 度	平成21		平成22		平成23		平成24		平成25		平成26		平成27		平成28		平成29		平成30	
	個 人	団 体	個 人	団 体	個 人	団 体	個 人	団 体	個 人	団 体	個 人	団 体	個 人	団 体	個 人	団 体	個 人	団 体	個 人	団 体
陸上競技（駅伝）	2		2		1				4		3	1			1		3	1	3	1
水泳競技			1		1		2		1		1		1				1		1	
柔 道	1		2		1		2		4		2		4		3	1	3	1	4	
剣 道																				
相 撲					1															
体 操												■	1	1	3	1	3	1	5	■
新体操	1	1		1		1	1	1	1	1						■	1	■		
バレーボール	/	1	/	2	/	2	/	1	/	1	/	1	/	1	/		/		/	
バスケットボール	/	■	/	■	/	■	/		/	■	/	■	/	■	/	■	/	■	/	■
サッカー	/	■	/	■	/		/		/	■	/	■	/	■	/	■	/	■	/	■
ソフトテニス	1	■	■	■		■		■		■	■	■		■	1	■			■	■
卓 球		■		■		■		■						■	■		■		■	
ハンドボール	/	■	/	■	/	■	/	■	/	■	/	■	/	■	/	■	/	■	/	■
バドミントン	1	■		■		■		■		■		■		■	■	■	■	■	■	■
軟式野球	/	■	/	■	/	■	/	■	/	■	/	■	/	■	/	■	/	■	/	■
ソフトボール	/	■	/	■	/	■	/	■	/	1	/	1	/	■	/	1	/		/	■
合 計	6	2	5	3	4	3	5	2	10	3	6	3	6	2	8	3	10	4	13	1
	8		8		7		7		13		9		8		11		14		14	

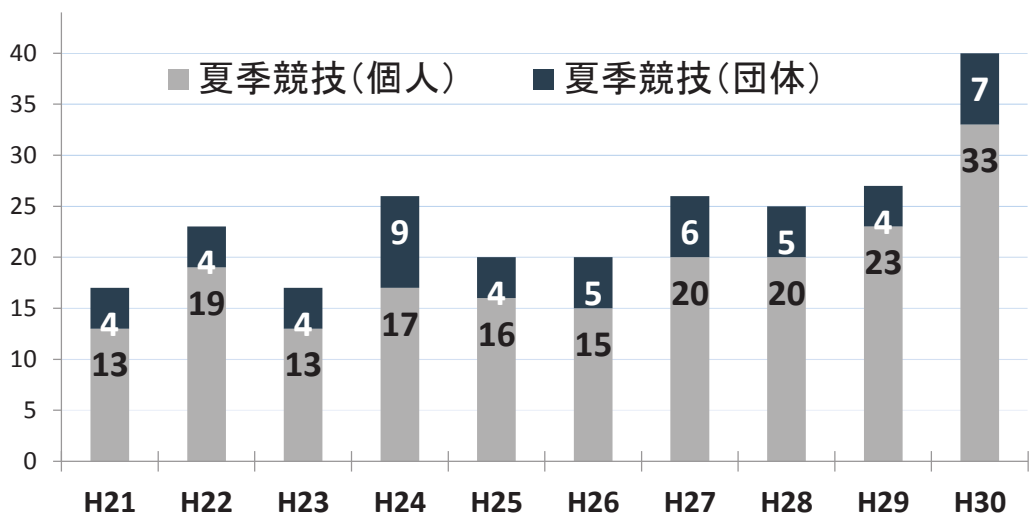
■:全国大会不出場(北信越ブロック大会敗退)

■ 夏季競技(個人) ■ 夏季競技(団体)



<全国高等学校総合体育大会入賞者（8位以内）の状況（直近10年間）>

年 度	平成21		平成22		平成23		平成24		平成25		平成26		平成27		平成28		平成29		平成30		
	個人	団体	個人	団体	個人	団体	個人	団体	個人	団体	個人	団体	個人	団体	個人	団体	個人	団体	個人	団体	
陸上競技（駅伝）	7		4		4		5		5		2		3		1		8		8	2	
柔 道	1		1		3		2	1	2		2		1		1				1		
剣 道																	1				
ソフトテニス																					
テニス							3	2	1				1	1	2	1	1	1			
バスケットボール				1				1												1	
バレーボール				1		1							1		1						
ハンドボール																					
ソフトボール																					
卓 球																					
バドミントン	1																				
体 操																				7	1
（新体操）		1	2		3				2	1	3	1	3	1	7	1	4	1	3	1	
相 撲			1												1						
弓 道			2				1		1			1								1	
水 泳			1				2	1	1		1		1		1					2	
サッカー																					
ラグビーフットボール																					
登 山								1		1											
レスリング			2		1						2		1		1		3			5	
漕 艇		1	1				1		1		1				1		1			1	
ウエイトリフティング													8	1			3				
自 転 車																				1	
フェンシング	2	1	2		1		1		2	1	3										
空手道							1	2					1							1	
ボクシング																					
アーチェリー			1																		
なぎなた																					
カヌー																					
少林寺拳法																	1				
定 通	2	1	2	2	1	3	1	1	1	1	1	3	1	2	6	1	2	1	4	1	
合 計	13	4	19	4	13	4	17	9	16	4	15	5	20	6	20	5	23	4	33	7	
	17		23		17		26		20		20		26		25		27		40		

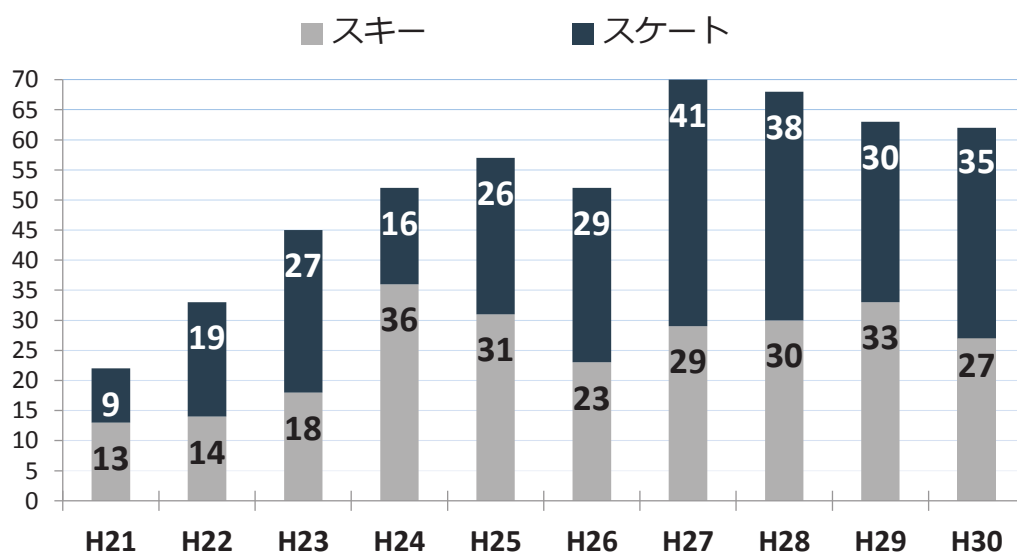


（全国高等学校総合体育大会及び全国高等学校定時制通信制体育大会の合計）

②冬季大会

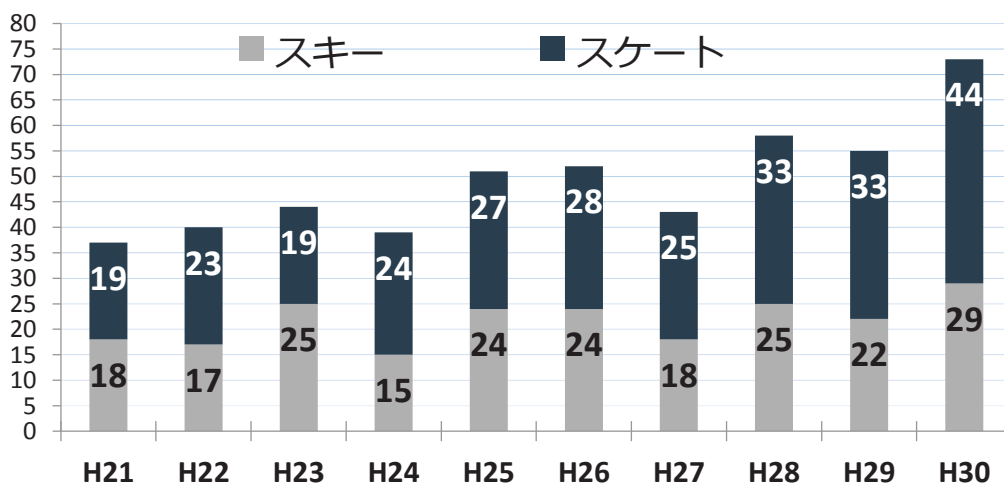
<全国中学校体育大会における入賞者（8位以内）の状況（直近10年間）>

年度	平成21		平成22		平成23		平成24		平成25		平成26		平成27		平成28		平成29		平成30	
区分	個	団	個	団	個	団	個	団	個	団	個	団	個	団	個	団	個	団	個	団
種目	人	体	人	体	人	体	人	体	人	体	人	体	人	体	人	体	人	体	人	体
カト（フィギュア含）	7	1	16	3	21	5	12	3	20	6	23	6	34	7	29	9	23	7	28	7
アイスホッケー	/	1	/		/	1	/	1	/		/		/		/		/		/	
スキー	11	2	12	2	16	2	34	2	29	2	21	2	27	2	28	2	31	2	25	2
合計	24	6	33	8	41	11	51	9	59	11	50	12	67	11	65	15	64	13	66	10
	30		41		52		60		70		62		78		80		77		76	



<全国高等学校総合体育大会入賞者（8位以内）の状況（直近10年間）>

年度	平成21		平成22		平成23		平成24		平成25		平成26		平成27		平成28		平成29		平成30	
区分	個	団	個	団	個	団	個	団	個	団	個	団	個	団	個	団	個	団	個	団
種目	人	体	人	体	人	体	人	体	人	体	人	体	人	体	人	体	人	体	人	体
スケート	16	3	18	5	15	4	19	4	23	4	24	4	21	4	29	4	27	6	38	5
（アイスホッケー）							1													1
スキー	15	3	14	3	22	3	14	1	21	3	20	4	15	3	22	3	19	3	25	4
合計	44	10	51	12	50	11	50	15	60	11	59	13	56	13	71	12	69	13	96	17
	54		63		61		65		71		72		69		83		82		113	



(3) 本県出身のオリンピック出場選手数及びメダリスト

①夏季オリンピック

	出場種目	出場者数	メダリスト
シドニー (2000年)	陸上競技(2名)、ボート バレーボール	4名	
アテネ (2004年)	ボート	1名	
北京 (2008年)	陸上競技、バレーボール、カヌー 自転車、馬術、ボート	6名	銀メダル：塚原直貴(陸上競技)
ロンドン (2012年)	水泳、陸上競技、カヌー、馬術 ボート	5名	
リオデジャネイロ (2016年)	水泳、陸上競技(3名) カヌー(2名)、バドミントン	7名	銅メダル：箱山愛香(水泳) 銅メダル：荒井広宙(陸上競技) 銅メダル：奥原希望(バドミントン)

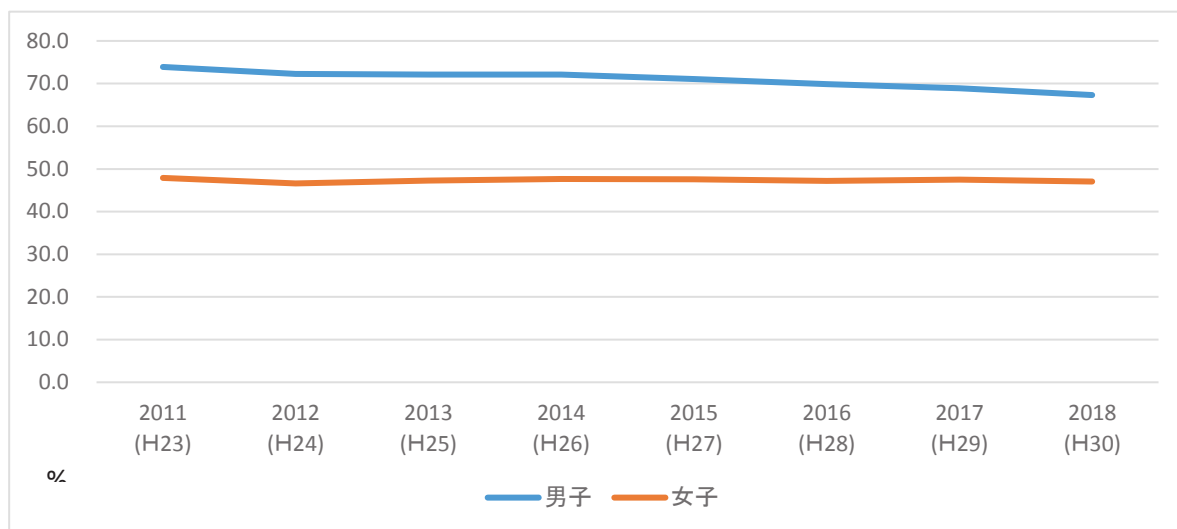
②冬季オリンピック

	出場種目	出場者数	メダリスト
ソルトレーク (2002年)	スケート(4名)、ショートトラック(3名) スキー(9名) リュージュ(2名)、スkeleton(2名)	20名	
トリノ (2006年)	スケート(5名)、ショートトラック(2名) スキー(6名) リュージュ(3名) skeleton(2名)	18名	
バンクーバー (2010年)	スケート(3名)、ショートトラック(3名) スキー(7名)、リュージュ(2名) skeleton(1名)、カーリング(1名)	17名	銀メダル：小平奈緒(スケート)
ソチ (2014年)	スケート(4名)、 ショートトラック(2名) スキー(7名)	13名	銅メダル：竹内 択(スキー) 銀メダル：渡部暁斗(スキー)
平昌 (2018年)	スケート(3名)、ショートトラック(3名) スキー(6名)、カーリング(3名)	15名	金・銀メダル：小平奈緒(スケート) 金メダル：菊池彩花(スケート) 銀メダル：渡部暁斗(スキー)

2 ジュニア世代の現状

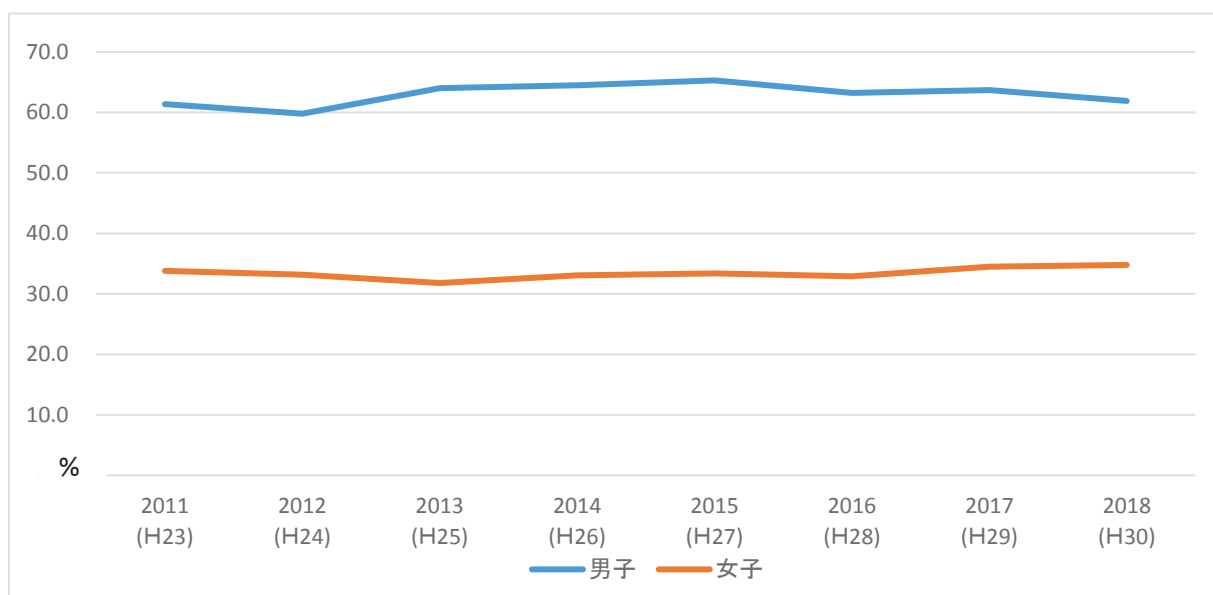
(1)長野県の運動部活動加入状況の推移

①中学生の部活動加入状況の推移



	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)
男子	73.9	72.3	72.1	72.1	71.1	69.9	68.9	67.3
女子	47.9	46.6	47.2	47.7	47.5	47.2	47.5	47.1

②高校生の部活動加入状況の推移



	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)
男子	61.4	59.8	64.0	64.5	65.3	63.2	63.7	61.9
女子	33.8	33.2	31.8	33.1	33.4	32.9	34.5	34.8

(参考) スポーツ庁 運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン作成検討会議(第1回)資料より
全国の中学生・高校生の運動部活動等への参加状況(平成28年度)

中学男子	75.10%	高校男子	56.40%
中学女子	54.90%	高校女子	27.10%

(2) 本県の児童生徒の体力・運動能力の現状について

①平成 30 年度調査結果及び年度別推移

※網掛は全国平均を上回る

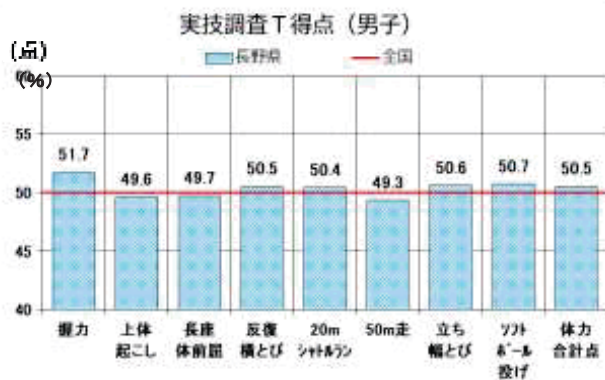
○本県と全国の体力合計点（平均）の一覧

		25 年度		26 年度		27 年度		28 年度		29 年度		30 年度		全国と差引
		体力合計点	順位	体力合計点	順位	体力合計点	順位	体力合計点	順位	体力合計点	順位	体力合計点	順位	
小5 男子	本県	54.07	19位	53.84	22位	54.10	18位	54.20	17位	54.69	17位	54.64	19位	0.43
	全国	53.87		53.91		53.80		53.92		54.16		54.21		
小5 女子	本県	54.35	30位	54.66	30位	55.40	23位	55.29	27位	55.69	25位	55.99	25位	0.09
	全国	54.70		55.01		55.18		55.54		55.72		55.90		
中2 男子	本県	41.87	24位	42.11	20位	42.33	20位	42.39	23位	42.35	23位	43.14	16位	0.96
	全国	41.78		41.63		41.89		42.13		41.96		42.18		
中2 女子	本県	47.01	39位	47.38	41位	48.83	26位	48.65	34位	49.04	38位	50.31	32位	-0.12
	全国	48.42		48.55		49.08		49.56		49.80		50.43		
総合	本県	197.30	29位	197.99	27位	200.66	19位	200.53	23位	201.77	23位	204.08	22位	1.36
	全国	198.77		199.10		199.95		201.15		201.64		202.72		
総合差引		-1.47		-1.11		0.71		-0.62		0.13		1.36		

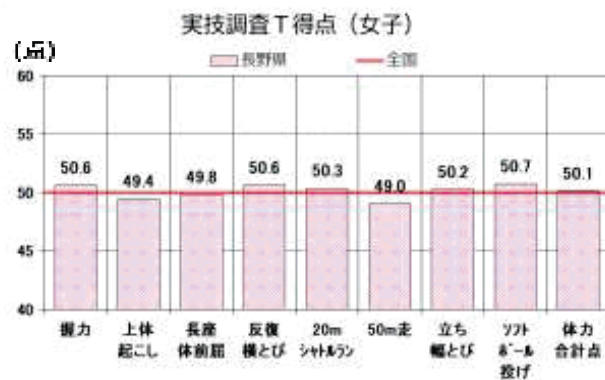
※ 体力合計点とは、小・中学校各 8 種目の記録を男女別に点数化(1~10 点)した合計点 (80 点満点)

②種目別 T 得点による全国比較

小学校男子



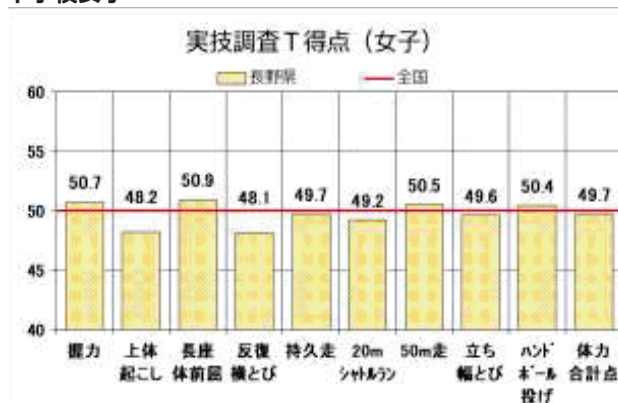
小学校女子



中学校男子



中学校女子



* T 得点は、標準偏差を示す。

3 公益財団法人日本スポーツ協会公認資格の取得状況

①競技別指導員資格取得者数

単位：人

競技名	競技別指導者資格 区分別登録者数						計
	指導員		コーチ		教師		
	指導員	上級	コーチ	上級	教師	上級	
陸上競技	44	2	32	5	0	0	83
水泳	69	6	45	9	93	20	242
サッカー	871	0	113	44	0	0	1028
スキー	19	46	11	1	24	26	127
テニス	82	8	5	1	6	0	102
ボート	9	0	6	0	0	0	15
ホッケー	0	0	6	1	0	0	7
ボクシング	0	0	2	0	0	0	2
バレーボール	430	52	19	6	0	0	507
新体操	0	0	15	0	0	0	15
トランポリン	0	0	3	0	0	0	3
体操競技	0	0	7	1	0	0	8
体操	37	6	0	0	0	0	43
バスケットボール	155	0	10	4	0	0	169
スケート	12	0	17	4	0	0	33
レスリング	5	0	0	1	0	0	6
セーリング	2	1	2	0	0	0	5
ウエイトリフティング	2	0	1	0	0	0	3
ハンドボール	36	0	4	0	0	0	40
自転車競技	5	0	12	1	0	0	18
ソフトテニス	69	5	5	0	0	0	79
卓球	35	18	27	2	0	0	82
軟式野球	51	0	2	0	0	0	53
相撲	4	0	0	0	0	0	4
馬術	3	0	9	0	0	0	12
柔道	4	0	13	0	0	0	17
ソフトボール	442	19	13	1	0	0	475
フェンシング	4	0	6	0	0	0	10
バドミントン	85	4	6	1	0	0	96
弓道	129	1	2	0	0	0	132
ライフル射撃	0	0	1	0	0	0	1
剣道	20	5	0	0	0	0	25
ラグビーフットボール	5	0	6	0	0	0	11
スポーツクライミング	7	3	0	0	0	0	10
山岳	45	32	0	1	0	0	78
カヌー	7	0	4	0	0	0	11
アーチェリー	18	0	0	0	0	0	18
空手道	60	5	13	1	0	0	79
アイスホッケー	18	0	0	1	0	0	19
銃剣道	7	0	0	0	0	0	7
クレール射撃	3	0	0	0	0	0	3
なぎなた	21	8	3	1	0	0	33
ボウリング	23	0	1	0	0	0	24
ゴルフ	6	0	0	0	0	0	6
トライアスロン	6	0	0	0	0	0	6
計	2850	221	421	86	123	46	3747

※平成30年10月現在

②メディカル・コンディショニング系資格取得者数

	H28	H29	H30
スポーツドクター	108	111	115
スポーツデンティスト	3	5	7
アスレティックトレーナー	46	51	54
スポーツ栄養士	6	8	9

※平成31年1月現在

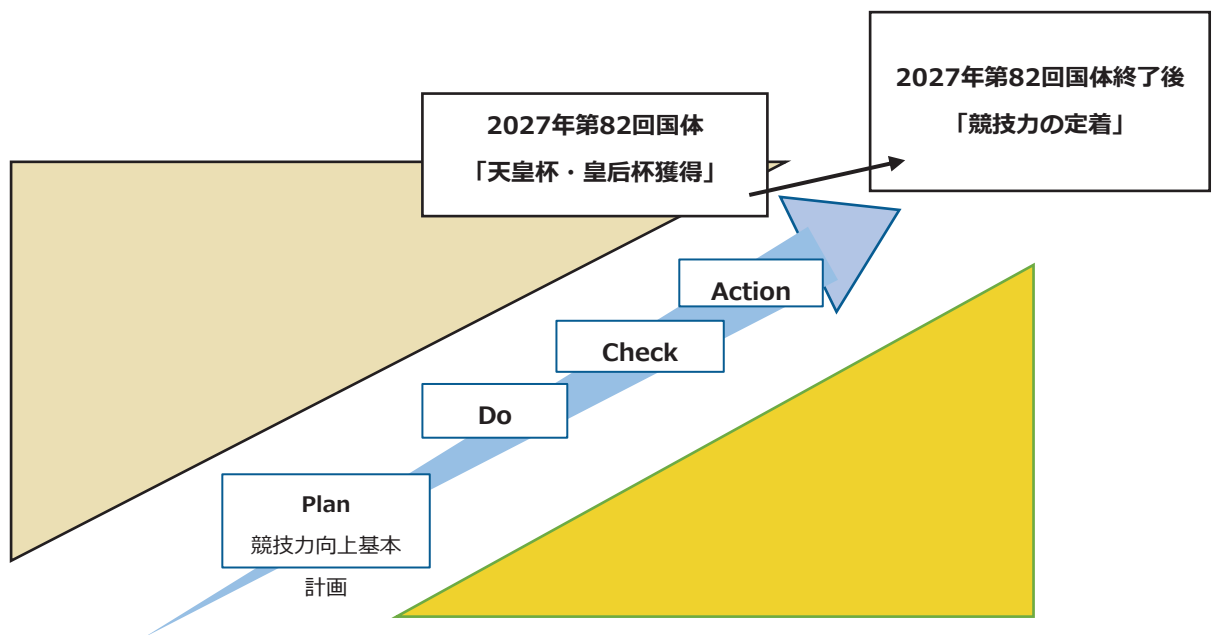
第3章

競技力向上に向けた具体的な取組み

1. 競技力向上のために取り組む4つの柱

2027年の第82回国民体育大会における天皇杯及び皇后杯の獲得と、大会終了後の持続可能な競技スポーツの振興を目指し、本県の課題を踏まえた上で、取り組むべき競技力向上対策を、次の4つの柱に区分し、総合的かつ計画的に推進する。

区 分	本 県 の 課 題
(1) 組織体制の整備・確立	<ul style="list-style-type: none"> 多くの競技団体に会員数が減少傾向にある。 強化担当が運営担当を兼務するなど、組織体制が十分ではない。 関係団体と相互に協力し合うシステム作りが必要。
(2) 指導体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> 優秀な選手を育成・強化するために、高い指導力を有する指導者の養成が必要。 指導者数が不足する競技では、即戦力となる指導者の確保が必要。
(3) 選手の発掘・育成・強化・確保	<ul style="list-style-type: none"> 競技人口の少ない競技は、選手の発掘につながる早急な取組みが必要。 幼少期からスポーツにふれる機会を提供するなど、競技人口を増やすための方策が必要。 優秀な選手が、県内にとどまるような対策が必要。
(4) 競技力向上のための環境整備	<ul style="list-style-type: none"> 運動部活動と連携して強化していくためのシステム構築が必要。 選手強化に必須でありながら、高額のため調達が困難な競技用具等がある。 選手のパフォーマンス向上につながるスポーツ医・科学サポート体制のさらなる充実が必要。



2. 競技力向上対策本部が主体となって行う具体的な取組み

(1) 組織体制の整備・確立

(ア) 総合的な推進体制の構築

競技力向上対策本部において、本部会議、強化対策委員会、専門委員会（競技・医科学）等を運営して、競技力向上対策事業の企画・立案・進捗管理・評価等を行いながら、総合的・計画的に事業を推進する。

(イ) 競技団体の組織マネジメント力の強化のための支援

競技団体が、強化活動に集中して取り組むことができるよう、機能的な組織体制の整備や、組織マネジメント力の強化を支援する。

(ウ) 競技団体の強化計画の策定支援及び定期的な事業評価

競技団体が策定する強化計画（長期計画及び年間計画）の支援を行うとともに、計画に基づき行う強化活動について、成果・課題等の分析を支援する。

(エ) 競技団体間と関係団体との連携強化のための支援

競技団体間や関係団体との連携による強化活動を支援する。

(オ) コンプライアンス徹底のための支援

競技団体のコンプライアンス徹底のための研修会等を開催する。

(2) 指導体制の確立

(ア) 指導者の養成及び資質向上

- ① 有望若手指導者の中央研修会等への派遣支援
最新の指導法や最先端の情報を習得するため、競技団体が推薦する有望若手指導者の中央競技団体等研修会への派遣を支援する。
- ② 国内外のトップレベル指導者による研修会の開催
競技団体への助言や県内指導者が最新の指導方法を習得するため、国内外のトップレベルの指導者を招聘した研修会を開催する。
- ③ 公認指導者資格の取得促進のための支援
国体監督候補者の安定的な確保を図るため、国体監督基準に基づいた公認資格取得等に要する講座の受講を支援する。
- ④ 競技の枠を超えた指導者の交流促進
指導者が、競技の枠を超えた情報交換や技術、戦術、トレーニング方法等を共有するための交流会等を開催する。
- ⑤ 強化スタッフの連携支援
競技団体が、ジュニア期(小・中・高)から成年までのすべての強化スタッフを一堂に会して取り組む強化活動(研修会の開催等)を支援する。
- ⑥ 一貫指導体制の確立のための支援
競技団体が作成した選手育成プログラムに基づいた一貫指導体制の確立のため、競技団体が行う指導者研修会等の開催を支援する。
- ⑦ プロスポーツチーム等との連携
県内のプロスポーツチーム等と連携した指導者講習会等を開催する。

(イ) 指導者の確保

- ① 教職員等を目指す指導者の確保
全国の優れた指導力を有する人材の中から、本県において教職員等を目指す者の情報を集め、関係機関と連携して、確保に努める。
- ② 指導者の雇用の促進
全国から優秀な指導者を確保するため、地方自治体や民間企業等に対し、即戦力となり得る人材の雇用促進の働きかけを行う。
- ③ スポーツ国際交流員(S E A)の活用の検討
国際レベルの指導力を選手の育成・強化に活かすため、関係機関と連携して、J E TプログラムによるS E Aの活用を検討する。

(ウ) 指導者の活動や指導環境の整備

① 強化拠点地域での指導強化

競技団体が設定する強化拠点地域において、関係機関と連携して、教職員等を含め高い専門的指導力を有する人材の活用を促進する。

② 強化指定コーチの認定

競技団体の推薦により、より高い意識と使命感を持って指導実践ができる指導者を「強化指定コーチ」とする認定制度を創設し、その活動を支援する。

③ アドバイザリーコーチの委嘱

競技団体の推薦により、何度も全国大会入賞に導くなど高い指導実績を有する県内外の指導者を「アドバイザリーコーチ」として委嘱し、トップレベルの指導法や情報を県内指導者に提供する活動を支援する。

④ 指導者が活動しやすい環境づくり

指導者が競技力向上のための研修会や合宿・大会等に参加しやすくなるよう、関係機関等に働きかけを行う。

(3) 選手の発掘・育成・強化・確保

(ア) 少年種別選手の発掘・育成・強化

① ジュニアアスリートの発掘・育成

将来性のあるジュニアアスリートを発掘し、様々な運動体験などのプログラムを通じて、2027年の国体をはじめ、将来、世界の舞台で活躍できるスポーツ人材を育成する。

② 強化活動への支援

競技団体が行う練習会や合宿等の強化活動を支援する。

③ 強化ジュニアクラブ等の指定と活動の支援

競技団体の推薦により、有望なジュニア選手を継続して多数輩出しているジュニアスポーツクラブ等を強化指定し、練習会や合宿等の強化活動を支援する。

④ 強化指定選手の指定と活動の支援

競技団体の推薦により、2027年の国体に少年種別年代となる有望な選手（ターゲットエイジ）を「強化指定選手」として指定し、競技団体が行う強化活動を支援する。

⑤ 適性種目と出会うための体験会の開催

競技人口が少ない種目等を対象に、個々の持つ適性（潜在能力）を再発見し、より高い競技パフォーマンスが期待できる競技・種目へ導くための体験会（トライアウト）を実施する。

(イ) 成年種別選手の育成・強化・確保

① 成年種別選手・チーム等の強化指定と活動の支援

競技団体の推薦により、2027年の国体で活躍が期待できる選手・クラブチーム・企業チーム・大学運動部等を強化指定し、競技団体等が行う強化活動を支援する。

② ふるさと選手の活動支援

2027年の国体で活躍が期待できる「ふるさと選手」について、競技団体等が行う強化活動を支援する。

③ 女性アスリート支援

女性アスリートが直面しやすい特有の課題解決のために、専門家による研修会や相談会などを開催し、より良い環境で女性アスリートが競技の継続ができるよう支援する。

④ 教職員等を目指すアスリートの確保

全国の優れた競技力を有するアスリートの中から、本県において教職員等を目指す者の情報を集め、関係機関と連携して、確保に努める。

⑤ 長野県アスリート就職支援事業の活用

選手が安心して競技生活を継続できるよう、県教育委員会が進めている長野県アスリート就職支援事業等を活用して、地方自治体や民間企業等に働きかけを行う。

(ウ) 競技人口の拡大

① 幼少期のスポーツ体験支援

子どもたちの体力の向上を図るとともに競技スポーツの魅力を伝えるために、県内のプロスポーツチームや競技団体がタイアップしたスポーツ体験教室等を開催し、幼少期からさまざまなスポーツに触れる機会を提供する。

② 小学校教員研修

体育の授業を通してスポーツ好きな子どもを増やすため、関係機関と連携して、小学校教員を対象に、専門的指導者による研修を実施する。

③ 競技人口の少ない種目の支援

競技人口の少ない種目について、競技団体が行う体験教室やスポーツクラブの立ち上げなどを支援する。

(4) 競技力向上のための環境整備

(ア) 強化拠点の構築支援

競技団体が設定する強化拠点地域において、競技団体が地域のスポーツ関係者等と連携し、幼少期から成年期まで年齢の枠を超えて行う強化活動を支援する。

(イ) 本県の自然環境を活かしたスポーツ活動への支援

競技団体が行う高地トレーニングや冬季種目など本県の自然環境を活かした練習会や合宿などの強化活動を支援する。

(ウ) ICTを活用した遠隔指導の構築及び活動支援

広い県土を持つ本県において、オール長野で競技力向上活動を推進していくため、ICT機器を活用した遠隔指導体制の構築を検討するとともに、競技団体が行うICTを活用した強化活動を支援する。

(エ) スポーツ医科学関係者と連携した支援体制の確立・サポート活動支援

① スポーツ医科学関係者によるサポート活動への支援

スポーツドクター、アスレティックトレーナー、スポーツ栄養士、メンタルアドバイザー、スポーツファーマシスト等のスポーツ医科学の専門家が競技団体と連携して行う、選手へのサポート活動を支援する。

② 「スポーツ・コンディショニング・エキスパート（仮称）」の認定と活動支援

理学療法士、鍼灸師、柔道整復師等の有資格者で、アスレティックトレーナー活動をサポートすることに賛同いただける者に対し研修会を行い、その受講者を「スポーツ・コンディショニング・エキスパート（仮称）」として認定し、選手に対する行き届いたサポート活動を支援する。

③ スポーツ医科学拠点の設置の検討

医療機関や大学、専門学校等の協力のもと、選手がメディカルチェックやコンディショニングサポート、筋力測定、持久力測定、栄養指導などのスポーツ医科学面でのサポートを受けられる拠点の設置を検討する。

(オ) 特殊競技用具の整備

国体正式種目の競技用具で、競技力向上に直結する高額な特殊競技用具等を整備する。

(カ) 練習施設の優先利用の働きかけ

強化指定選手や団体が、できる限り優先的に練習施設が利用できるよう、施設所有者等に対する働きかけを行う。

(キ) スポーツ保険への加入促進

指導者や選手が安全に強化活動に取り組めるよう、スポーツ安全保険等の情報を提供する。

(ク) 情報収集と分析・発信

① 他県の競技力分析

戦略的な強化対策が展開できるよう、先催県や強豪都道府県が取り組んでいる強化対策事業等の情報を収集・分析するとともに、競技団体等へ情報を提供する。

② 最新トレーニング方法等の発信

最新トレーニング方法や練習方法の情報収集を行い、その情報を指導者や選手に発信する。

(ケ) 応援機運等の醸成

① ホームページ等による情報発信

本県選手への県民の応援機運を高めるため、対策本部の運営や強化活動の状況をホームページ等により情報発信する。

② マスメディアとの連携

テレビ、ラジオ、新聞等のマスメディアとの連携を図り、有望選手や競技団体の強化活動等について、情報発信する機会を増やし、県民の競技スポーツに対する注目や関心を高める。

3 各期間における主な取組み

各期間において、次の取組みを総合的かつ計画的に推進していく。

年	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028以降	
回	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83以降	
国体開催地	茨城	鹿児島	三重	栃木	佐賀	滋賀	青森	宮崎	長野		
期 間	育成期			充実期			躍進期			定着期	
目 標	天皇杯順位	12位以内			10位以内			8位以内	5位以内	1位	10位以内
	皇后杯順位	10位以内			9位以内			8位以内	5位以内	1位	10位以内
(1) 組 織	組織の確立	総合的な推進体制の構築									
	体制の強化・充実	各競技団体への組織マネジメント力強化									
		各競技団体と関係諸団体との連携強化									
	目標及び事業案に対する評価	各競技団体への強化計画策定支援及び定期的な事業評価									
(2) 指 導 者	養成・資質向上・確保	指導者の養成および資質向上									
		指導者の確保									
	活用・環境整備	指導者の活用・指導環境整備									
	一貫指導体制の確立	一貫指導体制の確立・充実									
(3) 選 手	ターゲットエイジの 発掘・育成	スポーツ体験教室の開催									
		少年種別選手の発掘・育成・強化									
	成年選手の育成 強化・確保	成年種別選手の育成・強化・確保									
					強化選手の指定			ふるさと選手支援			
(4) 環 境	拠点構築	強化拠点地域の構築・促進・充実									
	サポート体制の構築	ICTを活用した遠隔指導体制の構築・促進・充実									
		スポーツ医科学面からのサポート体制の充実									
		情報収集と分析・発信									
	施設・用具	特殊用具の整備・充実									
		練習施設の優先利用									

第82回国民体育大会
長野県開催

「長野県競技力向上対策本部」について

1 目的

2027年の第82回国民体育大会に向けた競技力向上を図るとともに、大会終了後も更なる本県スポーツの発展に寄与することを目的に「長野県競技力向上対策本部」を設置する。

2 組織

